



「自律」

「協働」

「創造」

令和8年6月1日  
発行者 大槻 亨  
編集 本田 敏行

第3号

## 一体感あふれる圧巻の運動会

校長 大槻 亨



5月23日（土）に開催いたしました「第79回 運動会」には、多くの保護者・地域の皆様にご来場いただき、生徒たちに温かい拍手をお送りいただきましたこと、心より御礼申し上げます。

また、運動会の運営にあたり、受付、パトロール、記録写真撮影などで多大なご協力を賜りました PTA 役員の皆様、そして観覧席での譲り合いにご協力いただきました保護者の皆様に、重ねて感謝申し上げます。皆様の温かいご支援とご声援が、生徒たちの大きな力となり、運動会を大成功に導くことができました。本校の教育活動が、皆様の深いご理解と支えのもとに成り立っていることを、改めて実感する一日となりました。

### 《700名を超える生徒たちの躍動》

700名を超える生徒が一堂に会し、仲間とともに懸命に競技に打ち込む姿は、まさに感動的でした。個人種目から団体種目まで、全ての競技において全力を尽くした生徒たちの姿は、本当に立派だったと思います。例え大きく差をつけられていても、最後までひたむきにゴールを目指して走り続ける姿からは、勝敗を超えた熱い思いが伝わってきました。「全力を尽くす姿」には、見る人の心を揺さぶる力があることを、生徒たちが改めて教えてくれました。



特に、色とりどりのビブスをまとい、息の合った動きで魅せた集団演技「Yosakoi 北の魂」と「大中ソーラン」は圧巻でした。校庭全体を使ったダイナミックな演技は、本校ならではの運動会の醍醐味を感じさせてくれました。ご来賓の方々からも、「どの選手も最後まで一生懸命で感動した」「素晴らしい運動会だった」といった温かいご感想を多数いただきました。

### 《運動会が育む「大中プライド」》

この運動会を通して、生徒たちはクラス、学年、そして学校全体の連帯感と一体感を強く感じ、仲間と喜びを分かち合うことの素晴らしさを存分に味わうことができたのではないのでしょうか。

運動会の成功は、当日グラウンドで輝いた生徒たちだけによるものではありません。昼休みにも黙々と個人種目の練習に取り組む生徒、バトンの受け渡しを何度も練習するリレー選手、ダンスの練習後に次の内容を真剣に話し合うダンスリーダー、各学級で全員リレーや学年種目の作戦を練る体育行事委員、更に、スローガン作成に取り組んだ美術部員、校内廊下に掲示された有志による運動会ポスターなど、陰で運動会を支え、開催への機運を盛り上げてくれた多くの生徒たちの存在がありました。

これらの取組は、3年生が最上級生としての誇りと責任を果たす場となり、下級生にとっては、その立派な姿を目に焼き付ける貴重な機会となったに違いありません。これこそが、大泉中学校に脈々と受け継がれる伝統、「大中プライド」であると確信しています。

これからも大泉中学校の良き伝統を受け継ぎ、生徒たちが互いを尊重し、支え合い、励まし合いながら、素晴らしい仲間づくり、そしてより良い学級、学年、学校づくりを続けてくれることを願っています。



### オクラ日記 NO. 3

副校長 本田 敏行

運動会練習から本番までの皆さんの姿を見て感動しました。目標を掲げ、クラスの仲間たちと一緒に作り上げた運動会は幕を閉じました。

私の心の中に刻まれた第79回運動会は、私が経験したラグビーの試合と重なり合っています。ノーサイドの瞬間、お互いの健闘を讃え合います。そこには「敬意を払う」この言葉が心に深く刻まれています。試合中は敵ですが、試合が終わると敵味方なくお互いを認め合う。これがラグビー精神です。

誰だって全てが上手くいくことはないと思います。自分一人であれば自らが責任をとればいいのですが、誰かと何かを取り組んでいる中では、ヒトは自分の責任を棚に上げて相手の責任にしてしまう場合があると思います。

例えば、試合中に自分のチームの仲間がミスをして失点をしてしまった場面を考えてみてください。「何やってんだよ～ちゃんとやれよ！」という言葉が飛び交います。もちろん、いい加減な気持ちで試合に臨んでいる者は誰一人いません。でも、必ずと言っていいほど嫌な言葉が飛び交います。

さて、このような言葉を掛けたからと言って現状が変わるのでしょうか？この嫌な言葉の裏には「失敗が自分でなくてよかった。」とか「アイツだからいつもだし。」という責任転嫁の気持ちがあると思います。

強いチームにはある鉄則がお互いの中に芽生えています。それは「リカバリー」です。誰かが失敗をしたらその失敗を自分が取り返してやる！という精神が一人一人にあるのです。私が経験してきたラグビーの試合では、自らの身体一つで相手を倒しに行くタックルがあります。もちろん相手からもタックルを受け倒されます。自分のチームの仲間がタックルで倒された時、その相手を次は俺が倒してやる！という闘志が湧いてくるのです。

それは同じ目標を掲げてキツイ練習を共にしてきたからこそ芽生える気持ちなのです。今の皆さんは、運動会でクラス全員心を一つにして闘いましたね。3年生は最高学年として、大中プライドを継承し伝承してくれました。1、2年生はこの3年生の雄姿を忘れず「次は自分たちの番だ！」の気持ちを忘れないでください。そして、どのようなことがあっても互いに敬意を払い、認め合ってほしいと願っています。それができる君達です。

それから円陣を組むことで一つ。お互いの肩を組んで円陣を作って士気を高めますね。実はラグビーでは肩を組んで円陣は組まないケースが多いです。肩を組んで円陣を組むと自然と顔が下を向きますね。だからお互いの顔と胸を張るためにラグビーではお互いの脇腹に腕を廻してお互いのユニフォームを掴んで力強く引き付けます。そうすると胸が張り顔が正面を向きます。決して下を向かず、正面を見つめて心を通わせてみてください。

この掛け声で心を一つにしてみるのもいいのでは・・・。「Keep Ready Go！」